

医療・福祉

薬だつ知識

(92)

ニンジンと聞くと、まず、オレンジ色で馬が好物の野菜、セリ科のニンジンを思い浮かべる方が多いかもしれません。一方、ウコギ科の朝鮮人参を思い浮かべたら健康への知識が深い方かもしれません。今回は薬用として用いられる後者の「人参」の話です。

朝鮮人参の他に高麗人参、薬用人参、オタネニンジンなど、使用の歴史に沿ってさまざまな名前が付いています。代表的な漢方薬としては人参湯、小柴胡湯、補中益気湯などに含まれ、血行を良くしながら滋養強壮や体力強化を目的に使用されています。

人参～薩摩藩と薬草～



自然薬草の森の竹節人参

初夏の頃、鹿児島や宮崎の山中で、運が良ければ赤い実を付けた竹節人参（トチバニンジン）の目生を見ることが

薬草園設けて多種栽培

ができるかもしれません。その草、サツマニンジンとも呼ばれていたようです。

第27代当主島津斉興の時代に編さんされた郷土地理誌「三國名勝図会」によると、明から渡来した漢方医「官何欽言」は、現在の宮崎県都城市梶山の山中で人参によく似た竹節人参を発見、これに和人参と命名し、医療に役立てたとあります。

薩摩藩は江戸時代には薬草園を設け、多くの薬草を栽培していました。現在では、霧島市清辺の県民の森・自然薬草の森の「歴史見本園」に当時栽培されていた薬草を植栽しています。

薬草の森では、7月最終日曜日にイベント盛りだくさんの「薬草の集い」も行われます。ぜひこの機会に薩摩藩と薬草の歴史に触れてみてください。詳しくは鹿児島県薬草師会ホームページからお問い合わせください。

（鹿児島県薬草師会漢方薬草同好会・瀬尾昭一郎）

令和7年7月1日（火）

92. 人参～薩摩藩と薬草～